

## 知床 Shiretoko

高密度に生息するヒグマと住民生活、国立公園利用の折り合いをつけることが喫緊の課題。地域全体で軋轢解消へ向かう意識づくりや観光客の過度の接近を防止するための抜本的対策を探る。

### 馬場 隆 北海道斜里町 町長※

1951年北海道斜里町生まれ。東京で就学・就職後、Uターンして漁業を継ぐ。町議会議員を経て2011年から町長。世界の宝、知床の価値を未来へ、子どもたちにつなげたい！

### 湊屋 稔 北海道羅臼町 町長

2015年4月羅臼町長就任、2期目。「町民が幸福になるためのKプロジェクト」として、住民自らで創り上げるまちづくりを推進。2020年5月には近隣7町の協力を得、自動車用ご当地ナンバー「知床」を導入。2021年3月、ゼロカーボンシティを宣言している。

### 村田 良介 公益財団法人 知床財団 理事長※

1954年石川県で生まれ、愛知県で育つ。学生時代は考古学を専攻し知床博物館、公民館、環境保全課、教育長を経て2016年から現職。知床の山と沢と海をこよなく愛す。

## 白神山地

### Shirakami-Sanchi

原生ブナ林の保護は十分だが制度面で利用が制約され、地域への経済的貢献も少ない。世界遺産を核に2県7市町村を中心とする周辺部の連携を深め、地域活性化方策など今後の新たな利活用や野生動物との共生のあり方を模索。

### 平田 衛 青森県鰯ヶ沢町 町長

1959年青森県鰯ヶ沢町生まれ。東海大学文学部史学科卒業後、鰯ヶ沢町役場に勤務。2017年より町長に就任。「活気のある賑やかなまち」、「子孫に託せる希望の持てるまち」を目指して町政に取り組んでいる。

### 吉田 満 青森県深浦町 町長

1953年青森県深浦町生まれ。東京で学生生活の後、帰郷して農業を継ぐ。町議会議員を経て2008年町長に就任。日本一の大イチョウなど豊かな自然を後世に残していきたい。

### 桑田 豊昭 青森県西目屋村 村長※

1957年青森県西目屋村生まれ、高校卒業後、県りんご試験場実習生を経て実家の農業を継ぐ。村農業委員、村議会議員を経て2021年から村長。白神山地を中心とした観光事業を推進し、自然環境の保護と雇用による住民生活の安定を図りたい。

### 佐々木 文明 秋田県藤里町 町長※

1956年秋田県藤里町生まれ。高校卒業と同時に藤里町役場に奉職。2011年8月より藤里町長に就任。現在3期目の最終年となり、白神山地世界遺産30周年を盛大に盛り上げたい。

### 堀内 満也 秋田県八峰町 町長

1976年秋田県八峰町生まれ。北里大学獣医学部産学部卒業後、県職員として勤務し、2022年12月21日付で退職。2023年1月9日より町長に就任。町の人口減少を最重要課題として取り組み、「町民が安心して暮らせる町づくり」を目指す。

### 齋藤 滋宣 秋田県能代市 市長

1953年北海道勇払郡厚真町出身。中央大学経済学部卒業。代議士秘書を務めた後、秋田県議会議員2期、参議院議員1期を歴任し、能代市長に就任。

## 小笠原諸島

### Ogasawara Islands

外来種対策や固有種等希少種の保護を進めるため、ペットの適正飼養などを村民ぐるみで進めるとともに、有識者の科学的助言の下で動植物相互のかかわりを考えて現状を評価し、随時対策を見直す順応的管理に取り組む。

### 渋谷 正昭 東京小笠原村 村長 ※

学生時代にダイビングで小笠原に来島したことがきっかけで、1983年小笠原村役場入庁。ホエールウォッチング事業の立ち上げに関わるなど、小笠原におけるエコツーリズムの振興にも携わってきた。2021年9月より現職。

## 屋久島

### Yakushima

「屋久島環境文化村構想」や「屋久島憲章」として関係者が共有してきた自然と共生する生活文化を損なうことなく、山岳部環境保全、エコツーリズム推進など既存の様々な取り組みを進めるなかで、遺産管理の筋道をつける。

### 荒木 耕治 鹿児島県屋久島町 町長※

1950年鹿児島県上屋久町（現・屋久島町）生まれ。高校まで屋久島で過ごし、東京へ進学。その後Uターンし1995年上屋久町議会議員選挙で初当選、上屋久町議会議長などを経て、2011年11月より現職。自然も生活も心も豊かな島を目指す。

### 小野寺 浩 (公財) 屋久島環境文化財団 理事長※

1973年から環境省で自然保護行政に携わる。国土庁、鹿児島県出向時には国土計画、地域計画を、国立公園現地事務所にも勤務。計画課長として新生物多様性国家戦略を策定し、2005年自然環境局長で退任。東大、鹿児島大に勤務した後、現職。

## 奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島

### Amami/Okinawa

4島は、野生生物の生息・生育環境と人の暮らしの場が近接。生態系管理型・環境文化型国立公園の特色を活かしつつ、島ごとに全域を3区分して遺産価値の保全を図る。とびとびに連なる4島の連携と適正な管理実現も課題。

### 安田 壮平 鹿児島県奄美市 市長※

1979年奄美市生まれ。東京に進学・就職後、28歳で帰郷。NPO法人や市議会議員を経て2021年12月市長就任。新しい時代に対応する未来都市・奄美市の実現に尽力したい。



人類共通のかけがえのない財産として、未来へつなげたい

※は当会議設立呼びかけ人

### 伊集院 幼 鹿児島県大和村 村長

1961年鹿児島県大和村生まれ。1981年大和村役場に入庁し職員を経て、2009年から現職。職員時代の経験を活かし「小さくとも光輝き続ける大和村」をスローガンに奄美初の温泉施設誘致など精力的に活躍中。

### 元山 公知 鹿児島県宇検村 村長

1970年鹿児島県宇検村生まれ。東京、沖縄で就職後Uターン。村議会議員を経て2019年から村長。素晴らしい自然や文化を守り、活かしながら次世代に繋いでいきたい。

### 鎌田 愛人 鹿児島県瀬戸内町 町長

1963年鹿児島県瀬戸内町生まれ。鹿児島で就学後、帰郷し建設業に従事。町議会議員を経て2015年町長就任。「環境を守り自然と調和したシマ」を次世代へ引き継ぎたい。

### 竹田 泰典 鹿児島県龍郷町 町長

1951年鹿児島県龍郷町生まれ。奄美大島の高校を卒業後、龍郷町役場へ入庁。役場職員、副町長を経て2017年から町長に就任し現在に至る。すばらしい龍郷町の自然・歴史文化をまもり・継承し、島内外へPRしていきたい。

### 高岡 秀規 鹿児島県徳之島町 町長

1959年生まれ。町会議員を経て2007年から町長。鹿児島県町村会長。自然との共生の中で生まれた文化を後世へと引き継ぐとともに、生物多様性豊かな島の魅力を世界に発信したい。

### 森田 弘光 鹿児島県天城町 町長

1951年天城町生まれ。明治大学政治経済学部卒業。1976年天城町役場入庁。農政課長、総務課長などを歴任。2011年天城町副町長選任。2018年12月より現職（現在2期目）。

### 大久保 明 鹿児島県伊仙町 町長

1954年生まれ。徳之島徳洲会病院において院長を務めた後、鹿児島県議会議員を経て2001年から町長に就任6期目。世界に誇るふるさとの自然・文化を次世代に継承していきたい。

### 知花 靖 沖縄県国頭村 村長※

1959年沖縄県国頭村生まれ。東京で就学後、国頭村役場に就職。企画課長、総務課長、副村長を経て2020年村長就任。世界自然遺産を子孫末裔まで世界の宝として引き継いでいく。

### 友寄 景善 沖縄県大宜味村 村長

1955年生まれ沖縄県大宜味村上原出身。1980年村役場入りし、大宜味村教育長、村議会議員を経て、2022年10月大宜味村長就任。大宜味村の自然環境の保全と負担を最小限に抑えながら各種事業を展開し、村の地域活性化を図ってきたい。

### 當山 全伸 沖縄県東村 村長

1948年生まれ。沖縄県東村有銘出身。1973年村役場入りし経済課長、会計管理者などを務め、2009年退職。2019年東村長就任。世界に誇るこの豊かな自然を後世に繋ぐため保全と利用の調和した地域活性化を図っていきたい。

### 前泊 正人 沖縄県竹富町 町長

1977年沖縄県石垣市生まれ。千葉で就職後、Uターンし竹富町役場職員を経て2022年から町長。自然環境への負荷を低減させる持続可能な観光の仕組みづくり等を通じて、観光産業の高付加価値化、地域循環型経済の構築を目指す。



## 第1回

## 世界自然遺産5地域会議

2023年1月18日(水)  
13:00～18:00

## 屋久島環境文化村センター 映像ホール

(鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 823-1)

※オンライン会議方式を併用

当日は You Tube でのライブ配信も予定

# 世界自然遺産と 未来社会のデザイン

日本の世界自然遺産  
5地域の代表者が  
屋久島に集まり、  
5地域会議を発足させます



13:00～  
14:30

### Program

世界遺産登録30周年記念事業  
知床世界遺産講演会  
-元斜里町長 午来昌氏ビデオメッセージ  
-知床自然センター映画「知床の冒険」上映  
-「知床の冒険」制作監督との対談

15:00～  
18:00

世界自然遺産5地域会議(準備会)  
開会・あいさつ  
議事  
(1)世界自然遺産5地域からの報告  
～各地域の現状・課題及び自然保護と暮らしの両立事例や提案  
(2)世界自然遺産5地域会議の設立  
(3)5地域会議の今後の事業の方向、開催予定  
～アドバイザーコメント、参加者意見交換、まとめ  
閉会

連絡先：(公財) 屋久島環境文化財団

〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 823-1 TEL0997-42-2900 FAX0997-49-1018

知床自然センター「知床の冒険」より  
表紙写真：各地域 HPより

# 世界自然遺産 5 地域会議とは

わが国の世界自然遺産は、1993年から2021年の間に5地域が登録されました。  
第1号の屋久島、白神山地は、2023年に登録30周年という大きな節目を迎えます。  
登録された5地域は、それぞれの地域課題を抱えつつ、自然保護のために独自の工夫を重ねてきました。  
こうした中で、大阪・関西万博関係機関から自然遺産地域の参加の呼びかけがありました。

これに応じて「世界自然遺産5地域会議」を発足させることとし、  
活動の第1段階として大阪・関西万博での事業メニューや提言をまとめ、  
「共生」や「環境文化」という日本型自然保護のメッセージを世界に向けて  
発信する機会としていきたいと考えます。

メンバーは、5地域の市町村長、公益財団法人の他、趣旨に賛同する民間企業や活動団体、個人等を考えています。

5地域会議は、この作業と並行してそれぞれの遺産地域の課題や取り組み事例の整理を進め、  
暮らしと自然保護の「両立モデル」や新しい自然保護「理念」を確立して、  
これらを国内外に示すことを、第2段階の目標とします。



写真協力：環境省

世界へのメッセージを大阪・関西万博で発信

共創 チャレンジ

**理念** 暮らしと自然保護の「両立」  
**システム** 「地域性」の調整の「仕組み、計画、制度」  
**自然遺産モデル** 様々な「工夫・事例」

自然と共生する地域づくりの実践、住民・市民参加を事業推進の柱に

## 5地域会議が目指す日本独自の自然保護

遺産登録地の傑出した価値と地域の取り組み事例

<h3>知床</h3> <p>海氷がもたらす、海・川・森とつながった豊かな生態系</p> <table border="1"> <tr> <td>環境管理</td> <td>・ヒグマ、エゾシカの生態研究と個体数調整などの対策実施</td> </tr> <tr> <td>経済・社会・文化活動</td> <td>・全国に呼び掛けて開拓跡地を原生林に戻す「しれとこ100平方メートル運動」の実践 ・ヒグマと人との接近回避のため、地元企業や町内会が草刈り作業、ゴミ拾い活動を展開</td> </tr> <tr> <td>制度・仕組みづくり</td> <td>・エコツアーガイドと連携して利用者コントロール策を導入し、植生保護、ヒグマに対するリスク管理、快適利用の三者両立を実現</td> </tr> </table> <p>2005年7月登録 登録面積：71,100ha（海域含む） ・標高1500m級の急峻な山々、切り立つ海岸断崖、湿原・湖沼群などから構成される、知床半島の中央部から先端の知床岬にかけての陸地と、その周辺海域。</p>	環境管理	・ヒグマ、エゾシカの生態研究と個体数調整などの対策実施	経済・社会・文化活動	・全国に呼び掛けて開拓跡地を原生林に戻す「しれとこ100平方メートル運動」の実践 ・ヒグマと人との接近回避のため、地元企業や町内会が草刈り作業、ゴミ拾い活動を展開	制度・仕組みづくり	・エコツアーガイドと連携して利用者コントロール策を導入し、植生保護、ヒグマに対するリスク管理、快適利用の三者両立を実現	<h3>白神山地</h3> <p>原生的なブナ林が東アジア最大の規模で分布、多様性を維持</p> <table border="1"> <tr> <td>環境管理</td> <td>・森林生態系の研究と地球温暖化等による影響把握のためのモニタリング調査 ・分布が拡大するニホンジカに対する、住民、関係機関の連携による監視等対策の強化</td> </tr> <tr> <td>経済・社会・文化活動</td> <td>・自然と共生するマタギ文化や、白神山地の魅力・価値を伝えるエコツアーの実施、歴史・文化も加えた「白神検定事業」の拡充</td> </tr> <tr> <td>制度・仕組みづくり</td> <td>・環白神で課題共有の場を設定し、各自治体を巡回しながら官民が交流</td> </tr> </table> <p>1993年12月登録 登録面積：17,000ha ・青森県、秋田県にまたがる標高200mから1250mに及ぶ山岳地帯、白神山地の中心部に位置する、広大で原生的なブナ林が残された地域。</p>	環境管理	・森林生態系の研究と地球温暖化等による影響把握のためのモニタリング調査 ・分布が拡大するニホンジカに対する、住民、関係機関の連携による監視等対策の強化	経済・社会・文化活動	・自然と共生するマタギ文化や、白神山地の魅力・価値を伝えるエコツアーの実施、歴史・文化も加えた「白神検定事業」の拡充	制度・仕組みづくり	・環白神で課題共有の場を設定し、各自治体を巡回しながら官民が交流	<h3>小笠原諸島</h3> <p>小さな海洋島での多種の固有種からなる生態系と現在進行形の生物進化</p> <table border="1"> <tr> <td>環境管理</td> <td>・島を挙げての外来生物対策や、陸産貝類等固有種の保護増殖の推進</td> </tr> <tr> <td>経済・社会・文化活動</td> <td>・ホエールウォッチングや特異な自然・文化を活かしたエコツアーの推進 ・世界遺産第1号ガラバゴスとの交流を重ね、保全を経済活動に組み込んだ遺産管理システムを習得</td> </tr> <tr> <td>制度・仕組みづくり</td> <td>・独自の要綱に基づきガイド同行を伴う立入制限地区を設け、利用をコントロール</td> </tr> </table> <p>2011年6月登録 登録面積：7,900ha（海域含む） ・東京から南に1000km離れた位置にある30余りの島々（鴎島列島、父島列島、母島列島、北硫黄島、南硫黄島、西ノ島）。 ・有人島の父島、母島は集落域を除く一部。</p>	環境管理	・島を挙げての外来生物対策や、陸産貝類等固有種の保護増殖の推進	経済・社会・文化活動	・ホエールウォッチングや特異な自然・文化を活かしたエコツアーの推進 ・世界遺産第1号ガラバゴスとの交流を重ね、保全を経済活動に組み込んだ遺産管理システムを習得	制度・仕組みづくり	・独自の要綱に基づきガイド同行を伴う立入制限地区を設け、利用をコントロール
環境管理	・ヒグマ、エゾシカの生態研究と個体数調整などの対策実施																			
経済・社会・文化活動	・全国に呼び掛けて開拓跡地を原生林に戻す「しれとこ100平方メートル運動」の実践 ・ヒグマと人との接近回避のため、地元企業や町内会が草刈り作業、ゴミ拾い活動を展開																			
制度・仕組みづくり	・エコツアーガイドと連携して利用者コントロール策を導入し、植生保護、ヒグマに対するリスク管理、快適利用の三者両立を実現																			
環境管理	・森林生態系の研究と地球温暖化等による影響把握のためのモニタリング調査 ・分布が拡大するニホンジカに対する、住民、関係機関の連携による監視等対策の強化																			
経済・社会・文化活動	・自然と共生するマタギ文化や、白神山地の魅力・価値を伝えるエコツアーの実施、歴史・文化も加えた「白神検定事業」の拡充																			
制度・仕組みづくり	・環白神で課題共有の場を設定し、各自治体を巡回しながら官民が交流																			
環境管理	・島を挙げての外来生物対策や、陸産貝類等固有種の保護増殖の推進																			
経済・社会・文化活動	・ホエールウォッチングや特異な自然・文化を活かしたエコツアーの推進 ・世界遺産第1号ガラバゴスとの交流を重ね、保全を経済活動に組み込んだ遺産管理システムを習得																			
制度・仕組みづくり	・独自の要綱に基づきガイド同行を伴う立入制限地区を設け、利用をコントロール																			
<h3>屋久島</h3> <p>南北に長い日本の自然植生の特徴が見られる垂直分布と屋久杉の巨樹林</p> <table border="1"> <tr> <td>環境管理</td> <td>・水力発電の島であることに着目し「原生の自然を最先端技術で守る」ことをキーワードにした電気自動車の普及</td> </tr> <tr> <td>経済・社会・文化活動</td> <td>・島内集落の案内やもてなしを集落住民が実施する「里のエコツアー」の開発と実践 ・島内50年生スギ材による全木造の役場庁舎を新築し、スギ活用技術を開発</td> </tr> <tr> <td>制度・仕組みづくり</td> <td>・奥岳登山者に対するマイカー規制と山岳部環境保全協力金制度を導入、地元事業者も協力し定着</td> </tr> </table> <p>1993年12月登録 登録面積：10,700ha ・九州最高峰の宮之浦岳（1936m）を主峰として山岳が連座し多数の河川が流れ下る島の中心部から、西の海岸部に及ぶ地域。 ・温暖多雨（年間4000mm）の気候。</p>	環境管理	・水力発電の島であることに着目し「原生の自然を最先端技術で守る」ことをキーワードにした電気自動車の普及	経済・社会・文化活動	・島内集落の案内やもてなしを集落住民が実施する「里のエコツアー」の開発と実践 ・島内50年生スギ材による全木造の役場庁舎を新築し、スギ活用技術を開発	制度・仕組みづくり	・奥岳登山者に対するマイカー規制と山岳部環境保全協力金制度を導入、地元事業者も協力し定着	<h3>奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島</h3> <p>島々の形成過程を反映した、世界的に貴重な固有種や絶滅危惧種</p> <table border="1"> <tr> <td>環境管理</td> <td>・かつてハブ対策として導入し増殖した外来種マングースに対し、「マングースバスターズ」を結成して徹底的に駆除活動を実施</td> </tr> <tr> <td>経済・社会・文化活動</td> <td>・島唄を通じて奄美の自然・文化を情報発信する奄美「環境文化」祭、CD売上の一部を保護活動に寄付 ・民間主導で結成された共同企業体による、電気バスを使用したモデルツアーの実践（やんばる）</td> </tr> <tr> <td>制度・仕組みづくり</td> <td>・入込客数の制限、来訪者・ガイド事業者の行動制限などを定めた「西表島観光管理計画」を策定</td> </tr> </table> <p>2021年7月登録 登録面積：42,700ha ・日本列島の南西部に位置する琉球列島の一部の島々の内4島5地域で構成。 ・黒潮の影響を受け、温暖多湿な気候を呈し、主に常緑広葉樹多雨林に覆われる。</p>	環境管理	・かつてハブ対策として導入し増殖した外来種マングースに対し、「マングースバスターズ」を結成して徹底的に駆除活動を実施	経済・社会・文化活動	・島唄を通じて奄美の自然・文化を情報発信する奄美「環境文化」祭、CD売上の一部を保護活動に寄付 ・民間主導で結成された共同企業体による、電気バスを使用したモデルツアーの実践（やんばる）	制度・仕組みづくり	・入込客数の制限、来訪者・ガイド事業者の行動制限などを定めた「西表島観光管理計画」を策定							
環境管理	・水力発電の島であることに着目し「原生の自然を最先端技術で守る」ことをキーワードにした電気自動車の普及																			
経済・社会・文化活動	・島内集落の案内やもてなしを集落住民が実施する「里のエコツアー」の開発と実践 ・島内50年生スギ材による全木造の役場庁舎を新築し、スギ活用技術を開発																			
制度・仕組みづくり	・奥岳登山者に対するマイカー規制と山岳部環境保全協力金制度を導入、地元事業者も協力し定着																			
環境管理	・かつてハブ対策として導入し増殖した外来種マングースに対し、「マングースバスターズ」を結成して徹底的に駆除活動を実施																			
経済・社会・文化活動	・島唄を通じて奄美の自然・文化を情報発信する奄美「環境文化」祭、CD売上の一部を保護活動に寄付 ・民間主導で結成された共同企業体による、電気バスを使用したモデルツアーの実践（やんばる）																			
制度・仕組みづくり	・入込客数の制限、来訪者・ガイド事業者の行動制限などを定めた「西表島観光管理計画」を策定																			

大阪・関西万博への参加  
テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン



公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会「基本計画」より

大阪・関西万博と5地域会議

2025年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）では、テーマ実現のために、様々な個人・団体による「共創チャレンジ」プロジェクトを募っています。同プロジェクトの「共創パートナー」であるイベント学会（中村利雄会長）は、（一財）地球産業文化研究所（GISPRI）と共同して「共創チャレンジ」の創出を支援しています。屋久島環境文化財団は、これに呼応し「共創チャレンジ」企画・実施団体の一つとして参加することとし、遺産地域市町村長及び関係者に「世界自然遺産5地域会議」（仮称）の設立、発足を呼びかけています。